

格助詞「で」の中国語における表現

堀 田 洋 子

中国語の学習にあたって、最も困難を感じるものの一つは、日本語を的確に中国語に表現することである。就中、日本語の助詞の使いわけによる微妙な意味の違いの扱いは極めてむずかしい。ここでは、特に格助詞「で」をとりあげ、その意味或いは役割によって、中国語表現上いかなる法則が見出されるか若干の考察を試みることにしたい。

助詞「で」は、一般に格助詞或いは接続助詞として分類されるが、現代語においては格助詞「で」の使用頻度が圧倒的に多いようである。格助詞とは、「体言および体言に準じるものに承接し、その承接部を、連体関係、連用関係のいずれかの関係つまり、資格、〈格〉によって、後続する構文成分と連結し、所属各語のそれぞれの意味によって、特定の論理的な関係を表示するもの」(注1)と定義される。格助詞が、中国における日本語学習者にとって極めて難しいものであることは容易に想像されるが、「現代日語基礎語法」(注2)によれば、「格助詞主要接体言、表示該体言在句中的地位、可以構成主語、賓語、補語、謂語和状語。格助詞是句子的架子，非常重要，一定要在实践中逐步领会掌握。」と記されており、実例に即して会得すべきことが強調されている。

さて、ここで格助詞「で」に関する概観をしておきたい。歴史的には、「<で>の発生は、院政鎌倉時代にさかのぼる。<にて>の転じたもので、『今昔物語』や『打聞集』にも、すでにその例が見える。(中略)<にて>と同様、格助詞としての機能と助動詞の機能とをしだいに分化させていったものとみることができる。室町時代にはいると、<で>は抄物などで盛んに用いられ、ロドリゲスの『日本文典』には、次のように記載されている。“にて”は“書きことばで用る”，“で”は“Nite (にて) と意味も用法も同じであって、

話しことばに使ふ。”(注3)接続関係では、「体言および<体言+助詞>で一体言相当のものにつく」(注4)また、「下に助詞<は>、<も>を伴って、<では>、<でも>の形で用いられることが多い」(注5)。「現代日語基礎語法」では「で 補格助詞。接体言或具有作体言資格的助詞「の」作句子的補語、是表示動作的場所、範圍、方法或原因、理由的詞。相當於漢語的「在」、「用」、「以」、「因為」等。」(注6)と述べている。

次に意味、用法についてみよう。

「日本文法大辞典」(注7)では次のように分類されている。「①動作、作用の行なわれる場所、場面を表わす。②動作を行なう主体としての組織、団体を表わす。③手段、材料を表わす。④原因、理由、根拠を表わす。⑤動作、作用の行なわれる場合の状態を表わす。⑥期限、限度、範圍を表わす。⑦「では」の形で、時を表わす語について、動作の行なわれる時期を表わす。▽「で」あるいは、「それで」などの形で接続詞としても用いられる。」また「助詞助動詞詳説」(注8)では次のように分類する。「(1)①動作、作用の行なわれる場所を示す。②動作、作用の行なわれる場面、事態を示す。③〔「～でも～でも」の形で〕場所、場面、事態を列挙する。④動作を行なう主体である組織や団体を示す。⑤動作、作用の行なわれる時の状態、態度、立場を示す。⑥〔「では(じゃ)」「でも」の形で〕動作の行なわれる時期を示す。(2)手段、方法、道具、材料などを示す。(3)原因、理由、根拠などを示す。また、「で」「では(じゃ)」「でも」「それで」「ところで」という形で、接続詞として、あるいは接続詞的に用いることもある。」なお、「現代日語基礎語法」(注9)では、簡単に「(一)表示場所、範圍、(二)表示手段、材料、(三)表示原因、理由」としている。

小論では、現代国語における格助詞「で」及びその応用形としての「では」「でも」「それで」に限り、次の十項目の分類にしたがって、例を示しながら中国語での表現法の検討をしていくことにしたい。

〔一〕動作、作用の行なわれる場所を表わす

(1)子どもたちは庭で遊んでいます。(孩子們在院子裏玩兒呢。)(日)(注10)

(2)宿舎と云っては勿体ないような北京飯店の一室で、春子は自分のスーツケ

ースの中から、牡丹を取出し、麩糸を抜いた。（他們下榻在豪華的北京飯店。春子在飯店的房間裏，從自己的皮箱中取出牡丹衣裳，抽出繃線。）

（墨）（注11）

(3) 更らにその特点を言えば、大都会の生活の名残と田舎の生活の余波とが、此処で落合って、緩かにうず巻いているようにも思われる。（如果要進一步來指出這些地方的特点，那就是，都會生活的残余和農村生活的余波在这里交混起來，徐緩地相互卷在一起了。）（武）（注12）

(4) 何に、別に用事はないのだから明日一日位此処で暮らしても可んです。（沒有關係，反正沒有什麼要緊事情，明兒就在這裏休息一天也好。）（忘）（注13）

(5) 駅の前で待ち合わせよう。（在車站前邊見面吧。）（日）

(6) アジア・アフリカ卓球友好招待試合は、ペキンでおこなわれた。（亞非乒乓球友好邀請賽在北京舉行過了。）（現）（注14）

(7) それは薬局などで売っています。（那個在藥房等舖子販賣。）（日）

(8) 「名流邦楽と舞踊大会」が芸術祭の終幕を飾って新橋演舞場で開催されていた。（在新橋劇場舉行的“國樂及舞蹈名流大會”是結束藝術節時的一樁盛事。）（地）（注15）

(9) 門の所で友だちに会う。（在門口兒和朋友見面。）（助）（注16）

(10) 委員会は二階の会議室で開かれている。（委員會在二樓會議室舉行會議呢。）（助）

(11) 頭の上の梢で小鳥が鳴っていたら君の幸福である。（要是頭頂上樹梢頭還有小鳥在歌唱，那更是你的幸福了。）（武）

(12) 主人は客の風采を視ていて未だ何とも言わない、その時奥で手の鳴る音がした。（主人正在端詳着來客的風采，還沒來得及答話，忽然聽見內屋傳來了拍手的聲音。）（忘）

上記の例から見ると、例文(1)から(10)までは、いずれも前置詞^(注17)の「在」が用いられており、例文(11)と(12)は特定の言葉は用いられていない。

〔二〕動作、作用の行なわれる場面を表わす

(1) 博士は、はしがきで次のように述べている。（博士在序言里叙述如下。）

(助)

- (2)そのことは序文でふれています。(那個問題在序言裏提到了。)(日)
- (3)音曲の世界で父の娘と対している時、盲いていればこそ寿久は、こうも音に住めるのであろうかと、邦枝は疑ったものであった。(当父女倆在音曲界裏相處時，邦枝曾納悶過：寿久是否正因為是盲人，才能如此和樂曲相依為命呢？)(地)
- (4)部屋の中で孤り，空想の世界で，充分父に甘えていた邦枝は，今が今会う気になれなかった。(邦枝剛才還孤零零一個人坐在屋子裏，在冥想中跟父親撒了半天嬌，如今在現實生活中，她却無心馬上跟父親打招呼。)(地)
- (5)彼が中国で受けた様々な感銘を，高原の美しい空気の中で一層純粋なものに洗い上げていたらしい。(他在中国的種種感受，在高原的清新空氣中，進一步提高為純潔的感情。)(墨)
- (6)委員会で審議する。(在委員會上審議。)(助)
- (7)口述試験ではねられる。(在口試時被刷下来了。)(助)
- (8)最終審査ではねられてしまった。(在最後審査時被刷下来了。)(日)
- (9)保守的な国の，最も保守的な世界で，世間を狭く暮している春子にとって，新しい中国の知識は殆ど皆無と云ってよかった。(春子一直生活在保守的国家中最保守的社会環境裏，在這個狹窄的天地，她对新中国可以說是一無所知。)(墨)
- (10)その声の勢に，春子は鏡の中で目を瞠った。(鏡子裏映現出春子随着喊声瞠目驚視的神態。)(墨)
- (11)あるときも新作で，こんなことがあった。(有一次演新本子戲，出了這樣一樁事。)(黒) (注18)
- (12)親切な中国人は通訳に細々と永宝齋での口上を教え込んでくれた。(這位好心的中国人詳細地向翻譯交待了去同永宝齋聯繫的事。)(墨)
- 上記の例の中で，例文(1)から(8)まではいずれも前置詞の「在」が用いられているが，例文(7)と例文(8)は「在」を用いなくてもよい。例文(9)は動詞の「在」が補語として用いられている。例文(10)(11)(12)は特定の言葉は用いられていない。

〔三〕動作、作用の行なわれる時の状態を表わす

(1)やがて彼は目をあげて春子の帯の花海棠を見、それから何事かを通訳に云って、鋭い目で春子を見た。(過了一会兒，他定睛望着春子衣帶上的海棠花，對翻譯說了些什麼，然後又用銳利的目光看了看春子。)(墨)

(2)やがて、「新関、琴持ってきてなさい」寿久が冷厳な口調で云った。(不久，寿久用嚴峻的口吻說：“新関，拿箏來。”) (地)

(3)一定速度で回転する。(按一定的速度旋轉。)(助)

(4)つまり邦枝も「千鳥」を流行の新感覚で弾く気はないのであった。(也就是說，邦枝無意按照目下流行的新穎感覺來彈奏《千鳥》。)(地)

(5)僕は世間の読者の積りで聴いているから。(我就以一个普通讀者的身分來聽。)(忘)

(6)何か満たされぬ気持で別れました。(抱着空虚的心情離別了。)(日)

(7)狂言作者たちが気づいて、幕袖から舞台へ黒衣姿で駆け込んでき、助太刀したから旦那は台詞を悪く云うことができたが、それは醜態というものだった。(狂言作者們注意到這一点，就穿着黒衣從側台跑上來幫忙，老板這才順利地說出台詞，但簡直丟尽了醜。)(黒)

(8)春子が柔らかく三松を睨むと、三松は大真面目で膝を進めた。(春子溫柔地瞪了三松一眼，三松馬上一本正經地湊上前去。)(墨)

(9)万八は身一つ損わずに八日間という超スピードで作曲を上げていた。そして三日間を二人の大夫の稽古にあてたのだ。(万八沒累壞身子，以八天的時間，高速度地完成了作曲，而且拿三天來給兩位大夫排練。)(人) (注19)

(10)対等の立場で協議する。(站在平等的立場上進行協議。)(助)

(11)フルスピードで走って来た。(开足馬力跑來了。)(日)

(12)邦枝は慌て気味で挨拶を返したが、はずみでついまじまじと楽居草履を爪がけた男の素足を見てしまった。(邦枝心里有点慌，就趕忙彎腰回禮，恰好把那人的—双趺拉着後台專用草履的光脚看個—清二楚。)(地)

上記の例文(1)(2)は「用」、例文(3)(4)は「按」「按照」、例文(5)は「以」と例文(1)から例文(5)まではいずれも前置詞を用い、例文(6)と(7)は態助詞「着」を動詞のあとにつけている。例文(8)(9)は修飾語のあとに關係助詞「地」をつけて連用

修飾語にしてある。例文(10)は動詞「在」が補語として用いられ、例文(11)と(12)は特定の言葉は用いられていない。

〔四〕 動作を行なう主体を表わす

- (1)原因については警察で調査中である。(關於原因警察正在調查。)(助)
 - (2)多分今日も寿久は、自分で着るものを選んだのであろう。(今天寿久穿的, 多半也是自己選取的。)(地)
 - (3)僕は自分で限界を定めた一種の武蔵野を有している。(我对武蔵野有着我自己規定的一個界限。)(武)
 - (4)みんなで歌いましょう。(大家来唱吧。)(日)
 - (5)夫婦で浪費する。(夫妻倆一起浪費。)(助)
 - (6)このことは私達二人で解決しよう。(這件事我們二人之間解決吧。)(現)
- 上記の例を見ると、いずれも特定の言葉は用いられていない。例文(5)の「……一起」例文(6)の「……之間」はそれぞれ主体またはその関係が強調された場合で、なくてもよい。

〔五〕 期限, 限度, 範囲を表わす

- (1)小さな家のごみごみ建っている中で, 一軒だけ玄関先の格子の新しい蕭洒な構えがあった。(在鱗次櫛比的小房子当中, 只有一家構造雅致, 装着簇新的格子門。)(墨)
- (2)さてこの望が果して自分の力で達せられるであろうか。(我是否能以自己的力量来達成這一願望呢?)(武)
- (3)申し込みは明日で締切ります。(報名到明天截止。)(日)
- (4)この中でどれがいちばんいいかしら。(在這裏邊, 哪個最好呢?)(日)
- (5)あんな大作を一週間でつくり上げたそうだ。(聽說那麼大的作品, 只用一個星期就作出来了。)(日)
- (6)この絵葉書は五枚で一組です。(這種画片是五張一套。)(日)
- (7)弾きこなす腕, 唄いきれる技を持つ者が, 一人でよい。心にぴたりと寄り添って来ぬものか。(但願有一個彈得上來, 唱得好的弟子, 肯於同自己心

貼心。) (地)

上記の例の中で、例文(1)は前置詞「在」、例文(2)は前置詞「以」、例文(3)は前置詞「到」がそれぞれ用いられておる。また、例文(4)も前置詞「在」が用いられており、例文(5)は副詞の「只」と前置詞「用」とで「只用」となっているが、この二例は、それぞれ範囲、期限を強調しており、なくてもよい。例文(6)と(7)は特定の言葉は用いられていない。

[六] 手段、方法、材料などを表わす

(1) 巾 (第十三絃) を弾いて左手で軽く押えた。(邦枝弾了一下“巾”(第十三弦), 用左手輕輕按住。)(地)

(2) テトロンで服を作る。(用尼龙做衣服。)(現)

(3) 花でへやを飾りましょう。(用花裝飾屋子吧。)(日)

(4) 網ですくう。(用網撈。)(助)

(5) 水だけで一週間生きていた。(只靠水活了一個星期。)(日)

(6) 聞香の作法通りの形で, 墨の匂いを嗅いでいる春子を, 幸吉はやはり驚嘆して眺めていた。(春子按照聞香的規矩, 嗅了嗅墨的香味。幸吉驚嘆地望着她。)(墨)

(7) カリフォルニアにもお出でになるかもしれぬ由にて, その節は琴でお手伝いさせて頂けそうで, 何かとお世話になることと存じます。(聽說他也許還要去加利福尼亞州, 我想屆時會彈箏為他伴奏, 要請他多照應。)(地)

(8) バスで通勤する。(乘公共汽車上班。)(日)

(9) 舟で行く。(坐船去。)(助)

(10) 会場は子供たちでいっぱいです。(会場裏擠滿了孩子。)(日)

(11) 幕が降り, 大道具方の手で解体された。(幕落了, 管道具的人把大道具拆開來。)(黒)

上記例文(1)(2)(3)(4)は「用」、例文(5)は「靠」、例文(6)は「按照」といずれも前置詞が用いられ、例文(7)(8)(9)はそれぞれ「弾」箏, 「乘」車, 「坐」船, と動詞が用いられている。例文(10)(11)は特定の言葉は用いられていない。

[七] 原因, 理由, 根拠などを表わす

- (1) かぜで一週間欠勤しました。(因為感冒休息了一個星期。)(日)
- (2) 病氣で欠席した。(因病欠席。)(現)
- (3) 斯様なわけで東京は必ず武蔵野から抹殺せねばならぬ。(正因如此, 東京非從武蔵野的範圍裏剔除不可。)(武)
- (4) 動議は多数の賛成で可決した。(動議因多数賛成而獲得通過。)(現)
- (5) 交通事故で急死する。(由於交通事故急遽逝世。)(助)
- (6) 再軍備は憲法で禁じられている。(在憲法上禁止再軍備。)(助)
- (7) それは道交法で禁じられています。(那在道路交道法上是被禁止的。)(日)
- (8) 声の位置で彼女が廊下で立ったまま云っているのが分る。(從声音的方位, 可以弁出她是站在走廊說話的。)(地)

上記例文(1)(2)(3)(4)は接続詞の「因為」または「因」が用いられている。例文(5)は前置詞「由於」, 例文(6)(7)は前置詞の「在」が用いられ, 例文(8)は前置詞の「從」が用いられている。

[八] 「では」の形で用いる場合

- (1) 室内ではオーバーをぬぎなさい。(在屋子裏, 請脱下大衣来。)(日)
- (2) 二階では寿久が自分でスイッチを入れ, 部屋を明るくした。(在楼上, 寿久親自擰開電門, 把房間照亮了。)(地)
- (3) 役者なら台詞を覚えるのが当然で, プロンプターに責任はないという理窟は, この世界では通らなかつた。(演員本来應該背熟台詞, 責任並不該由提詞的人來負, 但這道理在歌舞伎界是講不通的。)(黒)
- (4) その点では批評家からも読者からも当然で, 応分の評価を受けたと思う。
(在這一點上, 可以說評論家和讀者都曾給了它以應得的, 恰如其分的評價。)(黒)
- (5) 七番座敷では十二時過ぎても未だ洋燈が耿々と輝いている。(十二点已經敲過, 但七号房間裏却還是燈火通明。)(忘)
- (6) ピアノは譜の通り弾けば, 一応の音が出て音楽らしくなりますのに, 三味線ではてんで曲になりません。(鋼琴只要照譜子彈, 声音就大致都發出來

了，綵像個音樂的樣子；但是，光靠譜子，三弦是完全彈不成曲子的。)(地)

(7)N・H・Kでは歳末助け合い運動を実施している。(日本広播電台拳弁着年末互助運動。)(日)

(8)今日では宇宙旅行はもはや夢ではなくなりました。(如今，宇宙旅行已經不是夢想了。)(日)

(9)爺さんが早く知らせてくれりゃあ，この夏に間に合ったのに，今ではもう来年まわしですね。(老大爺要早点兒告訴我們的話，就能趕在這個夏天派上用場了。現在只好推到明年了。)(墨)

上記例文(1)から例文(6)までは，動作，作用の行なわれる場所，場面，状態等を表わしているが，例文(1)(2)(3)(4)は前置詞「在」が用いられており，例文(5)(6)は特定の言葉は用いられていない。例文(7)は動作の行なわれる主体を表わし，例文(8)と(9)は時を示す語について，動作の行なわれる時期を表わしているが，いずれも特定の言葉は用いられていない。

[九] 「でも」(または「……でも……でも」)の形で用いる場合

(1)唐墨は，中国でも高価なものです。(在中国，唐墨的價錢也是很貴的。)(墨)

(2)場所は東京都下でもずっと北よりの辺鄙なところだ。海の音が聞こえてくる筈はない。(這裏雖然也屬於東京都，却是在老遠的北郊的偏僻地方，按理說是聽不到海潮聲的。)(人)

(3)自分でも気に入ったし，着て出ると会う人ごとに称讃された。(不但自己覺得稱心如意，一穿出去，凡見到的人無不交口稱讚。)(墨)

(4)現在でも魂の不滅を信じている人は多い。(現在還有很多人相信靈魂是不滅的。)(助)

(5)今でも買うとしたら買えるんですの？(現在還能買得着嗎？)(黒)

(6)明日でもあなた取りに来て。スーツケースの奥に入ってるんだから。(放在手提箱緊底下呢，你明兒再來取吧。)(墨)

(7)舞台でも実生活でも着物は舞踊家の命だと思っていたから，春子は着るものには金に糸目をつけたことがない。(她認為不論在舞台上還是在現實生

活中，服装就是舞蹈家的生命，所以在穿着上從來就不吝嗇。）（墨）

(8)新中国は紙が払底しているらしく，東安市場でもどこでも碌な包装紙がなかったのに，さすがここ（永宝齋）の店には独自のものを用意してあった。（新中国也許是紙張供不應求，不論東安市場或別的地方都沒有漂亮的包装紙，唯獨永宝齋準備的包装紙却很有特色。）（墨）

上記のうち，例文(1)は前置詞「在」と副詞「也」が用いられ，例文(2)は「雖然……却是」，例文(3)は「不但」とそれぞれ接続詞が用いられている。例文(4)(5)(6)はいずれも時を示す語について，動作が行なわれる時期を表わし，例文(4)と(5)は「還」，例文(6)は「再」と副詞を用いている。例文(7)(8)は「……でも…でも」の形で場所や場面，状態を列挙するのに用い，二例とも接続詞の「不論」が「還是」や「或」と呼応して用いられているが，「不論」はなくてもよい。

〔十〕「で」「それで」などの形で接続詞として用いる場合

(1)これを皮切りに行く先々でもこの種の観客に見せることを思うと，聴いた声を蔑にすることはできないと思った。で，むしろ彼の方から工員たちに質問するようになった。（他一想到這次只是個開頭，往後到各地巡回演出，也将演給這種觀眾看，也就覺得應該重視他們的呼声了。於是，他索性向工人們發問：……）（人）

(2)そこでその夜，豊吉は片山の道場へ明日の準備の為のこりをかたづけに往って，帰路突然方向を変えて大川の辺へ出たのであった。（於是這一天晚上，豊吉又到片山家裏的練武場來，對明天開學準備工作還有遺漏的地方，又作了一些最後的安排。）（河）（注20）

(3)とかく武蔵野を散歩するのは高い処高い処と撰びたくなるのはなんとかして広い眺望を求むるからで，それでその望は容易に達せられない。（來到武蔵野散歩的人，總是喜歡檢更高更高的地方走去，以便找尋一処可以眺望得広闊一些的地方，可是要達到這個願望却不容易。）（武）

(4)「中国はもうすっかり夏だったのよ」「そうですか。ところで墨絵の着物は如何でした」（“中国現在已經是盛夏了。”“是嗎？那水墨画衣裳合適

嗎？”)(墨)

上記のうち、例文(1)と(2)は接続詞の「於是」が用いられ、例文(3)は接続詞の「可是」が用いられている。例文(4)は特定の言葉を用いていない。

以上を簡単にまとめると

〔一〕 動作，作用の行なわれる場所を表わす

- 前置詞「在」
- 特定の言葉を用いない

〔二〕 動作，作用の行なわれる場面を表わす

- 前置詞「在」
- 動詞「在」を結果補語として
- 特定の言葉を用いない

〔三〕 動作，作用の行なわれる時の状態を表わす

- 前置詞「用」「以」「按照」など
- 助詞「着」を動詞のあとにつけて
- 修飾語のあとに助詞「地」をつけて
- 特定の言葉を用いない

〔四〕 動作を行なう主体を表わす

- 特定の言葉を用いない

〔五〕 期限，限度，範囲を表わす

- 前置詞「在」「以」「到」「用」など
- 特定の言葉を用いない

〔六〕 手段，方法，材料などを表わす

- 前置詞「用」「靠」「按照」など
- 目的語に合った動詞（「弾」「乗」「坐」など）
- 特定の言葉を用いない

〔七〕 原因，理由，根拠などを表わす

- 接続詞「因為」「因」
- 前置詞「由於」「在」「從」など

[八] 「では」の形で用いる場合

- 前置詞「在」
- 特定の言葉を用いない

[九] 「でも」「……でも……でも」の形で用いる場合

でも

- 前置詞「在」が副詞「也」と呼応して
- 接続詞「雖然……却是」「不但」など
- 副詞「還」「再」など

……でも……でも

- 接続詞「還是」「或」など（強調する場合は接続詞「不論」と呼応して）

[十] 「で」「それで」などの形で接続詞として用いる場合

- 接続詞「於是」「可是」など
- 特定の言葉を用いない

注

1. 日本文法講座第9巻助詞（鈴木一彦，林巨樹編集 昭和48年明治書院）p. 112
2. p. 146（1973年北京商務印書館）
3. 助詞助動詞詳説（松村明編，昭和44年 學燈社）p. 370
4. 日本文法大辞典（松村明編，昭和46年 明治書院）p. 513
5. 注3と同じ書 p. 371
6. p. 151（注2と同じ）
7. p. 513～514（注4と同じ）
8. p. 371～372（注3と同じ）
9. 注2と同じ
10. 注1と同じ書，（日）と略す，訳文は拙訳による
11. 墨（有吉佐和子著，昭和42年，新潮社），訳文は<墨>（葉渭渠訳 1977年 北京人民文学出版社）
12. 武蔵野（国木田独歩著 昭和24年 新潮社）（武）と略す，訳文は<武蔵野>（金福訳 1978年北京人民文学出版社）
13. 忘れえぬ人々（注12と同じ）（忘）と略す，訳文は<難忘的人們>（注12と同じ）
14. 現代日語基礎語法（注2と同じ）（現）と略す，訳文も同書による
15. 地唄（注11と同じ）（地）と略す，訳文は<地歌>（文潔若訳 以下注11と同じ）

16. 注3と同じ書（助）と略す，訳文は拙訳による
17. 品詞の分類については，中国文法要略(呂叔湘著 1951年 商務印書館)，中国語への招待(安藤彦太郎 新島淳良著，昭和45年，大学書林)，中国語便覧(田中清一郎著 昭和47年 評論社)を参照
18. 黒衣(注11と同じ)（黒）と略す，訳文は<黒衣>（注15と同じ）
19. 人形浄瑠璃(注11と同じ)（人）と略す，訳文は<木偶浄瑠璃>（注11と同じ）
20. 河霧(注12と同じ)（河）と略す，訳文は<河霧>（注12と同じ）